

平成30年度 七条小学校の教育

【学校教育目標】

人として豊かに生きるために、自ら考え行動する子を育てる

「人として豊かに生きるために」	…学ぶ目的を明らかにする（将来展望を意図する）
「自ら考え」	…自主的に・主体的に（自分の考え・意思で）
「行動する」	…行動力（思うだけでなく・願うだけでなく）

【めざす子ども像】

1 学習する子	(確かな学力をつくる)	→ 研究委員会を中心に
2 優しい子	(豊かの心をつくる)	→ 人権教育委員会を中心に
3 元気な子	(健やかな体をつくる)	→ 健康安全委員会を中心に
4 力を合わせる子	(人とつながる力をつくる)	→ 生徒指導委員会を中心に

【めざす教職員像】

☆想像力・創造力・実践力があり、協働できる教職員

想像力	子どもの気持ち・保護者の気持ち・教職員の気持ちを想像できる力
創造力	子どもを成長させる取組を創造できる力
実践力	共通理解のもとで実践できる力
協 働	チームで動ける力

【めざす学校像】

子どもを育てるための具体的な取組がある学校

- *子どもたちが学習に参加し、勉強が分かる学校
- *安心安全で、子どもの命を守りきる学校
- *子どもたちと教職員の笑顔があふれる学校
- *子どもたちの学ぶ意欲にあふれる規律ある学校
- *教職員が、教育者としての自覚と専門性の高い学校
- *社会の変化を見据え、子どものキャリア発達を支援する学校
- *組織力と解決力の強い学校
- *保幼小中の連携などを推進する学校
- *地域・保護者から信頼される学校
- *子どもや家庭に対する総合的・継続的支援を行う学校
- *学校評価を活用して、教育活動の充実を図る学校

※取組のないところに成果はない！！

【今年度の重点】

『すべては七条の子どものために！』

◎授業で育てる

◇ユニバーサルデザインの授業を考える

「多くの課題のある子どもに届く授業は、すべての子どもの学力を向上させる」という考えに立ち、授業を改善する。

◇学習集団へ高める

「子どもに届く授業が学級づくりの要」と捉え、学級集団を学習集団へ高める

◇『チーム学習』を創造する

授業の中に必ず子ども同士の意見交流や協働して活動する場面を作り、『チームで学ぶ』という学習を実感させる。

○子どもの声を聴く

◇子どもの声を日常の教育活動に反映させることで、子どもの自尊感情を高め、自主性・主体性・積極性を引き出す。

◇教師が決めれば時間はかかるが、「あなたはどう思いますか?」「どうしてそんなことをしたのですか?」など、子どもの思いを聴く機会を大切にする。

○認めて褒めて『やる気』にさせる

◇一日一度は、誰かに褒められる関わりを考えて、子どもの『やる気』を引き出す。

○授業や集団生活の『規律』を守らせる

◇「守りなさい」と指導するのではなく、「なぜ、守らないといけないのか?」その訳を考えさせる指導をする。

◇6年生が、身近な手本になれるよう頑張れば、学校全体が高まる。

○小中一貫教育を通して、子どもたちの力を高める。

◇七条中エリア『子どもの本気』『大人の本気』を具現化する。

◇七条中エリアの子『はなしをきこう』『じかんをまもろう』『はんだんしよう』の具現化に向けて、以下の内容を『指導の力点』とする。

①指名するとき、呼名するときは、姓に「さん」(「くん」)を付ける。

②授業の一単位時間を守るとともに、授業の始まりと終わりのけじめを付ける。

③「めあて」と「まとめ・ふりかえり」を明示し、授業の足あとが分かる板書を心掛ける。

○子どもは大人の姿を見て育つ

◇「言葉遣い」「身だしなみ」「時間を守る」「約束を守る」などのお手本を示す。

○すべての教育活動とめざす子ども像との関連を明確にする

◇教育活動(行事・取組等)の「ねらい(めあて)」を子どもの「つけたい力」と捉え、四つの「めざす子ども像」のどれに迫るものなのかを明記して取り組む。

○取組の評価の具体的な規準を明確にする

◇評価の規準となる具体的な子どもの姿を明らかにして取り組む。

(いつまでに、どのような力を明確にして)

◇短期・長期の観点で、成果と課題を明確にする。

○保護者の願いや思いを十分に聴く

◇教師側の考えを伝える前に、まず、保護者の話を十分に聴き、思いの本質がどこにあるのかを探る(見極める)。

○保護者・地域との連携は、絶え間ない情報発信を大切にする

◇「おたより」や「ホームページ」等で、学校で生き生きと活動する子どもの姿を温かな目線で記載し伝える。